

平成 16 年度

第 11 号

SEUシニアクラブ会報

自 立
相互扶助
社会貢献

事務局:長野県諏訪市大和 3-3-5 セイコーエプソン労働組合内 TEL:0266-52-0714 Email:seu_scnt@moon.odn.ne.jp

第 3 回定期総会(懇親会)のご案内

日 時: 10月14日(木) 午後3時から6時まで

場 所: ゆうむ 25 諏訪市湖岸通り 1-16-2

会員の皆様へ

SEUシニアクラブ会長 宮崎 昇

時下ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

年金・医療・社会保障制度など、国や地方の政策に関わる課題への取り組みと、さまざまな「場」の提供および必要な情報交流を行うことを目的として、セイコーエプソン労働組合シニアクラブを結成し、早いもので2年を経過しようとしています。

10月からは2005年度を迎えますが、一年の活動を締めくくり、新年度へ向けて活動計画をご検討いただきたく、下記のとおり第3回定期総会を開催します。

また、EPSONの近況を会社役員からお話いただくよう、計画をしております。

つきましては、多数の会員の皆さんに総会へご出席いただき、情報交換の場としてご活用くださるようご案内申し上げます。

1、日 時: 2004年10月14日(木) 午後3時から

2、場 所: ゆうむ 25 諏訪市湖岸通り 1-16-2 Tel0266-52-6447

3、協議事項: 1) 2004年度事業報告、決算および監査報告
2) 2005年度活動計画・予算(案)について
3) 役員改選について
4) その他

4、記念講演: テーマ(仮題)「EPSONの現況について」
講 師 会社役員を予定し折衝中です

5、その他: 1) 出席者は同封の返信用はがきでご連絡ください。(切手不要)
2) 2005年度会費1000円を当日ご持参ください。

3) 総会終了後懇親会(懇親会費1000円)を開催しますのでご出席ください。

この件についてのお問い合わせは、下記にお願いいたします。

セイコーエプソン労働組合内 SEUシニアクラブ事務局

担当 藤森桂子 電話 0266-52-0714

お知らせ

9月度の「土曜さろん」は都合によりお休みします。

なお、来月以降年内の開催日は次の通りです。

10月23日

11月27日

12月18日

西山の里の「夏祭り」運営を支援

9月9日午後、会員有志9名（内会員家族2名）が、「諏訪市デイサービスセンター西山の里」（諏訪市湖南）で行なわれた夏祭りの運営支援ボランティアを行ないました。

この夏祭りは今年で3回目を迎える恒例行事で、『福祉の仕事は地味なだけに、年に数回はメリハリをつけたイベントの機会を設け、引きこもりがちで、社会への参加に弱腰なお年寄りに、参加する意欲を持ってもらいたい』・・・と職員の皆さんが企画する一大イベントです。

『少しでも高齢弱者の皆さんに、生きている喜び、生きていて良かったと感じてくれることが出来るならば、私たちがめざす介護のための支援活動の仕事に胸を張れます（宮澤所長談）』との言葉の通り、衣装を着飾り役になり切って、ナツメロのど自慢大会に奮闘し、会場の雰囲気盛り上げる職員の皆さんの姿に感動させられました。

我が会員メンバーは、即興の「納豆ネバネバ」の手ゲームで参加したあと、「綿あめ」「ヨウヨウ」「かき氷」「喫茶」などの出店をお手伝いしながら、関係者と交流を深めました。



上川アダプトプログラム

第一回清掃活動を実施

諏訪地区退職者連合の会（事務局長：河西邦夫さん）の呼びかけによる、「上川アダプトプログラム」第一回清掃活動が8月30日実施されました。当日は台風16号の接近で、雨雲が重くたれこめるあいにくの天候でしたが、雨に降られることもなく約2時間の作業に心地よい汗を流しました。作業には会員21名（内SEUシニアクラブ会員6名）が参加しました。

今回、退職者連合の会が担当することになった区間は、諏訪湖河口の上川大橋から上流の六斗橋までの左岸の通称・通勤バイパス（諏訪湖に向かって左側）約1.2kmです。



この区間は久しぶりの清掃とのことで、大量のゴミを予想していましたが、空き缶の数も少なく、左の写真のような収穫でした。

また、帰化植物「アレチウリ」の繁殖場所が数箇所ありましたが、既に繁茂が激しく、今年の除去作業はあきらめ、来年の春先に徹底した駆除をすることにしました。なお、10月に第二回目の清掃活動を予定しています。

8月28日の土曜さろんでは、「岡谷市、諏訪市、下諏訪町合併協議会」事務局長に就任した山田一六さんから「合併問題」についてお話をお伺いしましたので、要旨を報告します。

合併問題：次世代を担う子供・若者たちの立場で考えよう！

地方自治体には住民から大きな期待がかけられています。一方少子高齢化が進行し、予算を多く必要としています。しかし自治体の収入は急速に減って、10年前の水準に戻っています。合併協議がすすむ岡谷市・諏訪市・下諏訪町には次のような3→

<3市町一体で解決したい課題（例）>

- 1、経済、産業振興
産学官連携による新事業創出
広域観光事業推進
- 2、子育て環境向上
子育て支援施策の充実
- 3、ごみ処理施設の建設
- 4、広域、地域間交通網の整備
湖周バス、循環バス有効利用
- 5、健康促進と人口増加対策
新保健、医療、福祉サービス創設
- 6、諏訪湖と環境整備

○3市町の合併のねらいを整理してみます 目標を定めて効果的なまちづくりのために

経済、産業振興、福祉、教育、文化施設など、課題解決のためには一つの市になって取り組みれば効率的なまちづくりをすすめることができる。

行政改革と財政支援により財源を確保し、充実したまちづくりのために

市長、助役など理事者や議長、重複する職員などを削減して、10年で100億円人件費を圧→

○7月に設置された合併協議会では次のことが決められています

- ・新市の名称は「諏訪市」ときまりました
- ・本庁の位置は「現諏訪市役所」です
- ・現在の各庁舎に地域局が置かれ、不便のないよう窓口業務、サービスを行ないます
- ・市会議員の人員は現在65人が30人となります
- ・市民の声を吸い上げるため「地域協議会」を→

○現在注目を集めているのは、合併の是非を問う諏訪市民アンケートです。

私は「合併をする場合」「しない場合」について比較検討の結果、3市町が合併することが「市民生活向上」つながると確信し、合併推進の立場にたって業務を行なっています。会員の皆様のご理解を願っています。（文責 SEU シニアクラブ事務局）

諏訪市の主な事業

- ・小中学校、保育園の改築、改修の促進
- ・東バル跡地の購入と整備
- ・都市計画道路の整備促進
- ・県道岡谷茅野線バイパス整備
- ・複合型産業のまちづくり
- ・国道20号線バイパス整備促進
- ・JR複線立体化事業

岡谷市の主な事業

- ・病院建替え整備（病院統合）
- ・駅周辺地区の活性化
- ・超精密・超微細化工のスタートアップ産地形成
- ・芝浦工業大学新学部誘致

下諏訪町の主な事業

- ・赤砂崎所有地の有効活用
- ・砥川の河川改修
- ・御柱の里整備事業
- ・大社通り門前町再生事業

縮でき、良好なサービスを維持できる。

平成17年3月31日までに合併を決めると、国や県から約450億円の特別債（上限額）などの財政支援を受けられる。

個性的で自立したまちづくりのために

自治体には「自己責任、自己決定、自己負担」の原則のもとに独自の政策立案能力が、住民には新しいまちづくりに行政との役割分担のもとに協働してすすめることが、強く求められる。

設置することが検討されています

- ・新市まちづくり計画（新市の将来像、実施事業計画など）の検討がはじまっています
- ・医療福祉、安全、教育など市民生活に直結するサービス内容についても審議がはじまりました

ロス在住の河合将介会員からの便りも今回で 3 回目。海外の生活文化の一端にふれる機会として、定着した感があります。心待ちにしている皆さんも多いのではないかと思います。感想などありましたら、河合さん宛てメールを発信してみてもいいかなと思います。きっと新しい仲間との世界が広がることでしょう。

ロサンゼルス便り(7)『日本の美点を残しつつ・・・』

「閑(しずか)さや 岩にしみいる 蝉の声」(松尾芭蕉)—— 俳句は日本人が持つ感性の豊かさを示すものであり、私達日本人は俳句に欧米的な理屈を当てはめることはしないのが普通です。

ほとんどの日本人は、この句をみて、

- * 蝉が鳴いているのに、なぜ閑(しずか)かなの？
- * 堅い岩にどうしてしみ込むの？
- * 蝉は何匹？(単数？、複数？)
- * だからそれが何なの？

等々、理屈をこねたりせず、すんなりと受け入れているのが普通ではないでしょうか。私達は、どちらかというと一語一語の奥に広がる宇宙を想像し、楽しむ文化を持つ民族なのでしょう。



芭蕉の句をしたためた短冊をこの地に埋めて、石の塚をたてたもので、せみ塚と言われています。立石寺山道の長い石段の中間にある(写真は河合さんの投稿ではありません！事務局の編集です)

所謂日本的発想とは、欧米的な理詰めで分析・細分化していくのではなく、むしろその逆で、見えない又は表に現われていないものも含めて、全体を心とか感性で捉えようとする発想にあるようです。

特に「感性」を重視するといわれる俳句の世界では尚更のことですが、俳句だけでなく、日本人には日常会話でも、言葉を「省略」し、なるべく短い表現を好む傾向がみられます。

例えば「こんにちは」、「さようなら」などはそれぞれ「こんにちは良いお日柄で...」「さようならばこれにて失礼...」と言った表現を省略したものと言われています。数年前流行した「チョベリグ=超 Very Good」、「チョウB.M.=超バカ丸出し」、「M.M.=マジ・ムカツク」なんてのも この系列かもネ(= かもしれませんネ)

日本人は基本的に均質化した島国民族といわれ、お互いの常識にそれほど差がなく、多くを語らずとも理解し合えるので、言葉を省略しても互いの「察しの良さ」でカバーしてしまう、これはこれで日本人の誇るべき美点であることは確かです。

しかし、もはや一國孤立主義は許されない日本にとって、「寡黙」、「察しの良さ」という素晴らしい日本古来の美点も、一旦海外に出ると、今度はそれが大変な誤解の根源になり、「あの日本人は一体何を考えているのだ」といわれ、「顔の见えない日本人」となってしまいます。日本的発想の美点は残しつつ、国際社会の中で尊敬され、生き続けるにはどうすればよいか、—— 日本が新しい世紀を迎え、生き続けるための私達に与えられた重要テーマの一つではないでしょうか。

河合将介 (skawai@earthlink.net)